



飯田市 歴研ニュース

史料紹介 「種痘摘要」

前澤 健（歴史研究所特任研究員）

「麻疹は命の品定め、疱瘡は面の品定め」といわれた疱瘡（天然痘）は、古くから人びとの生活を脅かしてきましたが、「種痘」の普及により1980年WHOより根絶宣言が出されました。種痘（天然痘ワクチン）は、18世紀末にイギリス人のジェンナーが開発したものです。飯田下伊那でも、太田玄仲などにより遅くとも嘉永5年（1852）には種痘が行われていました。



太田用成

太田用成は、飯田藩士の館野家に生まれ、飯田藩医の太田家に養子に入り、医学を学びました。飯田下伊那での種痘の先駆者太田玄仲は養父です。明治維新後、公立飯田病院（明治6年3月扇町に開業）の副院長となり、その後浜松病院などへ移り、その地で『七科約説』を翻訳出版しました。同書は、明治前期医学を学ぶ者の教科書となりました。

「種痘摘要」（南信濃和田佐藤光弘家文書H-42）は、明治6年（1873）に公立飯田病院での太田用成の講義を聞いた医学徒（自称：虫識）がまとめたものとみられます。その内容は、種痘の歴史、苗の採り方、苗の選り方、接種方法、その後の経過、年齢による摂取量と、種痘全般におよぶものです。用成は、外国語で書かれた原書を相当数読んでおり、その知識をもとに講義をしたことが随所にうかがえます。また原書から得た知識だけでなく、アメリカ人の医師セムネズに師事した時に学んだことや、飯田での臨床事例などを交えて講義を進めていたこともわかります。

す。虫識は「種痘摘要」末尾に「太田氏之述簡易名宝」と、用成の講義が「わかりやすく宝物」とであると書いています。ここからも用成が教育者としても優れていたことがわかります。

公立飯田病院は、診療だけでなく医師の養成も行っており、教育課程の概要は判明していますが、具体的な内容は不明でした。「種痘摘要」は、その空白を埋める史料です。また飯田での太田用成の業績も公立飯田病院の副院長であったこと以外は、ほとんどわかっていません。この点からからも「種痘摘要」は、重要な史料となります。

しかし、「種痘摘要」が南信濃和田の佐藤家の所蔵となった理由は、不明です。

《参考文献》

小林郊人編『下伊那医業史』、甲陽書房、1953年

近藤大知「飯田下伊那における牛痘法の導入時期について」、

飯田市美術博物館研究紀要32、2022年



種痘摘要

旧鼎郵便局舎（鼎下茶屋）の建築調査

岩田 会津（歴史研究所研究員）



昭和 30 年代局舎（所有者提供）

鼎地区の下茶屋は、遠州街道をとおり人馬の休息地として、また周辺住民の買い物の場として古くから賑わった町場であった。自動車交通の発展と家屋の建て替えにより町場の雰囲気は失われつつあるが、そのなかにあつて往時の景観をつたえる貴重な建造物が、旧鼎郵便局舎である。このたび所有者のご厚意で建物内部の調査をおこなったので、簡単に報告したい。

所有者への聞き取りによれば、本局舎は飯田郵便局勤務の片桐節郎氏が鼎にうつり、昭和 5 年（1930）に竣工した。その後昭和の時代にかけて、片桐家により本局舎は運営されたが、平成元年に現在の鼎郵便局舎が新築されたため、いまは利用されていない。

建物は木造二階建てで、道に面する北側を正面とする。正面中央にポーチを持つ入口があり、外壁は下見板張りで洋風に仕上げられる。正面から向かって右側には石張り風のタイルで外壁を仕上げた応接室、左側には便所と水場のある建物が付属する。

局舎内部は間口 3.5 間、奥行 3 間の平面規模を持つ。入口をはいると正面に郵便・貯金・保険の窓口が設けられた木製カウンターと、左手に公衆電話室があり、その裏手は床上の事務空間となっている。内装は柿渋色で統一された木材と、壁の腰板、白色板張りの天井が、昭和のレトロな雰囲気を感じさせる。応接室は局舎と扉を介してつながる。床は板張り、天井は漆喰仕上げとされ、天井の照明には漆喰でメダリオンが施される。

局舎の左手背後には階段があり、二階へと上ることができる。二階は居住空間であり、八畳の座敷と四畳半の部屋からなる。昔は応接室の背面にも座敷が二間あったといい、昔の郵便局が、家族経営を軸とした職住一体の空間であったことが窺い知れる。

近代の日本では、郵便制度の普及のため、地域の有力者に運営を付託するかたちで、三等郵便局／特定郵便局に分類される小規模な郵便局が多く設置された。これらの局は初期のうちは局長の自宅で営まれたが、昭和初期ごろになると独立した局舎を建設すると考えられる。下伊那地域では、阿智村などにこの時期に建てられた局舎が現存しており、下見板張りの外観やカウンターのつくりなどに、鼎郵便局舎との共通項が認められる。下伊那地域における郵便局舎の成立を考えるうえでも、本建築は重要な事例であるといえよう。



局舎外観（岩田撮影）



局舎内観（岩田撮影）

サイバーセキュリティと古文書研究

坂本 広徳（歴史研究所市民研究員）

仕事ではサイバーセキュリティに携わっており、わかりにくいIT用語を社内外の人たちに理解してもらえるよう啓発活動や推奨対策の提案に取り組んでいます。

一方、プライベートでは清内路の古文書などを用いて江戸時代の村社会の研究をしています。地元の方からは「古文書に何が書いてあるかわからない」という声を多く聞きますので、年2回の調査時に実施している報告会に加え、区長さんや公民館の協力を得て古文書を読む会を月1回開催しています。

この2つの活動は本質的には同じことで、理解の難しい言葉や文字を広く伝えていく、そういう取り組みが自分の使命なのかなと思っております。よってみなさんに2点お伝えします。

1. 古文書が出てきたら、まず読んで解説してもらえる人を探しましょう。ご先祖様にせっかく残してもらった書き物を、内容がわからないままではいるのはもったいないです。
2. サイバーセキュリティ対策は、ウイルス対策ソフトの導入やサポート切れOSを使わないなど、基本的な対策を実施しましょう。世界の紛争はサイバー空間にも及んでいるため、いつ流れ弾に当たるかわかりません。



IPA（独立行政法人情報処理推進機構）「情報セキュリティ 10 大脅威 2024」（2024年2月、https://www.ipa.go.jp/security/10threats/nq6ept00000g22h-att/kaisetsu_2024.pdf）より「サプライチェーンの弱点を悪用した攻撃」の図。理解しやすい絵にまとめるのがなかなか難しい分野。



林野弘済会長野支部編『木曾式伐木運材図絵』（同支部刊、1975年）より「臼之図」。樽木搬出など現代では想像できない内容については、絵図を活用してイメージを持ちながら解説を試みたい。

地域史研究集会での研究報告と市民研究員候補等を募集します！

1 第22回飯田市地域史研究集会での研究報告（自由論題報告）

開催日：2025年9月6日（土）・7日（日） ※自由論題報告は6日に行う予定です

会場：飯田市役所（予定）

報告時間：30分（報告後に10分の質疑応答時間を設けます）

報告タイトルと要旨（1,600字程度）を郵送またはメールでお送りください

締め切り：2025年4月1日（火）（必着）

審査を行い、4月末までに採否結果をお知らせします

応募先：〒395-0803 飯田市鼎下山538 飯田市歴史研究所

E-mail iihr@city.iida.nagano.jp

2 市民研究員候補・歴史研究活動助成・飯田歴研賞2024候補作品

歴史研究所では、飯田下伊那を対象とした地域史研究のさらなる発展を目指して、研究者の養成、研究活動への助成、優れた研究成果の表彰を行っています。2025年度も5月から市民研究員候補、歴史研究活動助成、飯田歴研賞候補作品を募集する予定です。詳細は次号に掲載しますので、奮ってご応募ください

近刊書籍案内

『史料で読む飯田・下伊那の歴史 4 満洲移民・青少年義勇軍』

『満洲移民―飯田下伊那からのメッセージ―』（2007年）に続き、満洲移民・青少年義勇軍をテーマとした書籍を刊行します。「史料で読む飯田・下伊那の歴史」シリーズの一冊として、旧村役場文書や個人の日記、開拓団の報告書、満洲で詠んだ漢詩、体験者の聞き書き、写真など多岐にわたる資史料を一つずつ取り上げて解説しています。満洲移民の送出と敗戦にともなう崩壊だけでなく、その前史としての1920年代からの飯田下伊那の状況や、引揚げ後の戦後開拓に至るまでを全13章で扱います。

『飯田市歴史研究所年報』 22号

特集「飯田下伊那の学制と地域社会 ―「人づくり」から「ひとなる」へ―」や小特集「地域の歴史を未来へ引き継ぐ―飯田下伊那地域史研究の現在―」をはじめ、研究ノートや史料紹介などを掲載しています。

※ いずれも2～3月の刊行予定です。詳細は次号に掲載しますので、お楽しみにお待ちください。

定例研究会

○ 近世大平街道における物流と交通

報告者 羽田 真也（研究員）

開催日 2月8日（土） 14:00～16:00

会場 歴史研究所 研修室

研究助成報告会

○ 戦後日本農村社会における地域開発

―1970年代の長野県飯田市龍江地区

（旧下伊那郡龍江村）を事例として―

報告者 町田 良さん（京都大学学生）

開催日 2月22日（土） 13:30～15:00

会場 歴史研究所 研修室

※ それぞれ聴講をご希望の方はお電話ください

歴研ゼミ & ワークショップ

2月・3月の予定

会場：歴史研究所 研修室

近世史ゼミ

担当：羽田 真也（研究員）

2月12日・26日／3月12日・26日

（第2・第4水曜日） 18:30～20:30

建築史ゼミ

担当：岩田 会津（研究員）

2月21日／3月21日

（第3金曜日） 18:30～20:30

地域史ゼミ

担当：伊藤 悠（研究員）

2月13日／3月13日

（第2木曜日） 13:30～15:30

思想史ワークショップ

市民の皆さんが自主的に学び合う場

2月5日・19日／3月5日・19日

（第1・第3水曜日） 19:00～21:00

満洲移民研究ゼミ

担当：本島 和人（調査研究員）

第157回 2月8日／第158回 3月1日

10:00～11:40

近現代史ゼミ

担当：田中雅孝（調査研究員）

2月22日／3月22日

（第4土曜日） 10:00～11:40

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL：0265-53-4670
開所時間：午前9時～午後5時 休所日：日曜日・月曜日・祝日・12月29日～1月3日

※ 歴研ニュースはメール配信しております。

ご希望の方は歴史研究所までメールにてお申し込みください。 E-mail iih@city.iida.nagano.jp